



# 学報

第60号



## CONTENTS

* 理事長・学長メッセージ	02	* 退職教員メッセージ	16
* 大学・短期大学共催	03	* 採用教員メッセージ	17
* 大学・短期大学トピックス	04	* 沖縄キリスト教学院大学名誉教授称号授与式	17
* 2013年度卒業生の就職・進路	06	* 研究助成費獲得による研究活動	18
* 「沖縄県公立学校教員候補者選考試験」合格者の声	07	* 同窓会・後援会	18
* 行事	08	* 2013年度人事	19
* 卒業生の活躍	10	* 2012年度決算報告	19
* 平和・キリスト教活動	12	* 寄付感謝報告	20
* 国際交流活動	13	* Open Campus 2014	20
* 学生支援	14	* Campus Visit Day 2014	20
* 2013年度 おもな図書館行事	15		



沖繩キリスト教学院

理事長

神山繁實

## 新たな門出を祝して

卒業と入学のシーズンを迎え、卒業生をそれぞれの目標に向かって送り出し、新しい希望に胸をふくらませた新入生を迎える季節になりました。まずは、おめでとう！

今日の日を迎えるにあたって、本人の努力はもちろんですが、家族、友人、その他多くの方々の有形、無形の支援があったと思います。人間は、いつでも夢を持って生きることが必要です。聖書では、そのことを「幻」をもって生きるという表現をとっています。「幻を持たない民は滅びる」という言葉があるほどです。幻をもって生きるのは、人間だけだと思います。将来、自分がどのような人間になろうとしているのか、またどのような社会を築いていこうとしているのか、ヴィジョンをもって生きる必要があるのです。そのためにはそれぞれの夢をもって、その夢が達成できるような人生設計を立てる必要があるでしょう。その土台は皆さんが学んだ学校で基礎を築き、生涯にわたって学び続けることが必要になってきます。その栄養を補給してくれるのが、「心の友」ともいべき人との出会いであり、本との対話に他なりません。皆さんは、在学中に人との出会い、本との出会いを経験されたと思います。また、未知との遭遇ともいべき日本以外の他の地域を訪ねることも、新たな人との出会いや、自然との出会いによって新たな感覚と視点を獲得できると思います。そのような出会いと発見は、あなた方の心と知性の成長につながると思います。

本学の教育の基礎は、聖書の教えに基づく基督教の愛と奉仕にあります。ボランティア精神という言葉がありますが、まさにその精神を内包しているのです。教室で学んだ細かい内容は忘れても、大筋で皆さんの人間形成、人格形成に大きな影響を受けていることに気づいていくと思います。この意味で、学院は、一種の「漬物樽」に似ていると思います。本学院の学風が、何となく身に染まっていることに気がつくと思います。

最後に、母校のこと、後輩たちのことを覚えて祈ってください。皆さんのこれからの歩みの上に、神の導きと祝福とがあるように祈っています。

シャローム



沖繩キリスト教短期大学

学長 中原俊明

## 逆流に抗しつつ:基督教、沖縄、平和に立つ学びを！

1. 本学院は、1957年に沖縄キリスト教団によって生み出されて以来、今年で57年を迎えます。およそ私立大学では建学の精神が重視されます。本学院の場合、建学の中心人物は、仲里朝章牧師でした。仲里は、東大の学生時代に、洗礼を受けてキリスト者になり、やがて故郷へ戻り、戦時下の那覇商業学校の校長を務めました。しかし当時基督教は敵国の宗教とされ、仲里は軍部の圧力の下で皇民化教育を推進し、教え子たちを死の戦場へと送りました。沖縄戦では自身も学徒隊を率いて、南部の激戦地を転々とするうちに、米軍の艦砲弾の破片を後頭部に受け、九死に一生を得ました。戦後、首里教会の牧師として再出発し、訪ねてきた教え子らに「戦時下で間違った教育をして申し訳ない。許してくれ」と謝罪し、沖縄の将来に思いを寄せ、基督教精神で教育を受けた若い人たちの手で平和の島として生まれ変わるべき、という信念のもと本学院が創設されました。そこで仲里は、基督教、沖縄、平和にこだわったと思われます。

2. 今この国の政治状況が懸念され、新聞では政権の「暴走」という見出しさえあります。「神様からの贈り物」(矢内原忠雄)とされた平和憲法が風前の灯火となり、総理は、憲法20条で禁止された公式参拝を靖国神社(米国ではwar shrineと呼ぶ)で強行しました。そして国民は自国の引き起こした戦争の歴史を学ばず、周辺諸国や世界から孤立しつつあります。学校教育も国家統制が強まり、個性は悪、順応こそ善、といった戦前に似た状況があります。そんな中、ある歴史学者の言葉を想起します。ハーバード大学の歴史学部長や全米歴史学会会長を歴任した入江昭博士は「本来、歴史というものは、その一国中心のものであってはならず、世界の人々にも共有される客観性が必要だ」と述べました。

3. わが学院には、2年制の短大(英語と保育2学科)と4年制の人文学部(英語コミュニケーション学科)と大学院があります。今日、事実上の国際語となった英語を中心に、その背後にある基督教文化も学びます。その上で国際的なビジネスやコミュニケーションの知識も身につけ、多様な活動分野へ羽ばたいていけるのです。保育も単なる子育ての技術でなく、基督教でいう「アガペ」(他者に仕える自己犠牲的愛)の精神に立ち教育がなされます。

4. 本学院では、基督教、沖縄、平和に立ち、批判的思考力(critical thinking)を高め、仲里が戦時中に体験した悪夢の再来にならぬよう、みんなで力をあわせましょう。

God bless you all ! (2014年1月)

## 同時通訳集中講座

今年度は第21回目となり、関係者一同新たな気持ちで臨みました。主任講師の宮田耀彰先生と本学講師陣に加え、玉城弘子先生(フリーランス通訳・翻訳者、本学卒業生)と宮国薫子先生(琉球大学講師)にも授業をご担当いただき、幅広く豊かな内容の講座実現に協力を頂きました。

特別講演会では、モハメッド・アブデルミギード氏(エジプト出身、琉球大学大学院観光科学研究科)に「ともに学ぶ力」と題して英語で講演いただきました。エジプトから見た日本や沖縄の公民館の生涯学習に果たす役割について大変興味深い内容でした。上級クラスの受講生はこの英語による講演と日本語・英語による質疑応答の同時通訳を担当し、貴重な実践訓練を体験することができました。



## 学内英語弁論大会

今年もまた学内スピーチコンテストが行われ、沖縄キリスト教学院の学生たちが自慢の英語のスキルを披露しつつ、自分の考えを展開し、論理的にまとめてプレゼンする舞台となりました。沖縄キリスト教学院大学と沖縄キリスト教短期大学の各年次から参加した9人の学生たちが、時間をかけてトピックを選定し、考えを練り、5分間のスピーチを用意し、コンテストに臨みました。参加者全員の大変な努力に感謝の意を表したいと思います。今回集まったトピックは、正義の概念、ソーシャルメディア依存症、海外実習体験の考察など、さまざまでした。スピーチはどれも素晴らしく、審査員にとっては甲乙つけがたいものでしたが、城間さくらさんに最優秀賞が贈られました。これまでさくらさんが乗り越えてきたパーソナルな問題についての感動的なスピーチで、同じ問題を抱える人たちへのアドバイスも含まれていました。

スピーチはすべて、ハイライトシーンを本学ホームページで視聴することができます。3人の受賞者たちのスピーチは、フルバージョンでお楽しみください。

[http://www.ocjc.ac.jp/kouza/cmps\\_speech/13/20131115\\_report.htm](http://www.ocjc.ac.jp/kouza/cmps_speech/13/20131115_report.htm)

第1位	城間 さくら 英語科 2年	The Road to Success
第2位	小磯 絵梨奈 英語科 2年	Learn to Fail Before You Succeed
第3位	砂川 綾貴子 英語科 2年	My Facebook Confessions



## 高校生英語弁論大会

2013年12月7日、第25回高校生英語弁論大会が開催され、県内の高等学校から11人の弁士が参加しました。高度な弁論スキルのみならず、熟考された内容の濃い演説が披露され、聴衆はその熱弁に魅了されました。スピーチの内容は、沖縄の言語復興や健康、そして家族のことなど身近なテーマから、笑顔の大切さ、熟慮して決断をくだすことの重要性、不平等な社会に対する問題提起やグローバルな人材の定義についてなど、人間的成長に関する深いテーマが特徴的で、聴衆に感銘を与えました。テーマの質の高さに加え、演説の技術も高く、受賞者の選考は困難を極めました。

第一位入賞は「私の曾祖母」という演題で、曾祖母の生き方と教えを通して、学ぶことの意義と重要性を考察した沖縄県開邦高等学校の濱川木綿さんに贈られました。そして、本大会の特徴でもあるネイティブスピーカーの先生による即興の質問に答えるセッションで、ベストImpromptu賞に輝いたのは、沖縄尚学高等学校の松本萌香さんで、質問に対して迅速かつ的確に答え、テーマに関する明確な理解を英語で示しました。

第1位	濱川 木綿 開邦高等学校 1年	My Great-Grandmother (私の曾祖母)
第2位	松本 萌香 沖縄尚学高等学校2年	How to Have a Global Perspective (グローバルな視野を身に付けよう)
第3位	比嘉 萌子 球陽高等学校3年	The Power of Smile (笑顔のちから)
学長賞	日浦 康稚 向陽高等学校3年	Unequal Society (不平等な社会)
Best Impromptu賞	松本 萌香 沖縄尚学高等学校2年	How to Have a Global Perspective (グローバルな視野を身に付けよう)



## 英コミ

### 教職課程

今年度、15名の学生が教育実習を行い、教員免許状を取得しました。キリ学として7期目の卒業生であり、教員免許取得者は累計で100名を超えました。そして今年度、ようやく沖縄県公立学校教員候補者選考試験に四大卒業生として2名の合格者ができました。近年の教員採用試験の厳しさを考えると称賛されるべきことです。それを確認して、キリ学立ち上げ以来、教職課程を支えてきた村田典枝教授が退任いたします。村田教授が学生たちやスタッフと築いてきたキリ学の教職課程を、今後、益々発展させていきたいと思っております。



## 大学院

### 2013年度(第6回) 沖縄キリスト教学院大学大学院講演会

2013年11月2日(土)に、2013年度(第6回) 沖縄キリスト教学院大学大学院講演会を本学院の仲里朝章記念チャペルにて開催しました。今回は政治学者・評論家であるダグラス・ラミス氏をお迎えし、「不平等な権力下における異文化間のコミュニケーション」との演題で講演していただきました。学校教員や学生、基地関係者など、学内外から65名の参加者がありました。英語による講演であったため、本大学院修了生と山里恵子特任教授、及び本学非常勤講師の3名で、英日同時通訳を行いました。

講演は、異文化コミュニケーション学の古典として知られる文献を批判的に読むことからスタートしました。批判的言説分析を用いてこの本を分析することにより、その北米文化を中心・前提とする価値観や思考が、異文化の読者にとってどのような意味を持つのかを明らかにしました。特に代名詞のWeに注目し、本の中に繰り返し出てくるこの代名詞が、様々な社会的資本にアクセス可能な中産階級のアメリカ人を象徴することを指摘しました。その上で、この代名詞を北米以外の人々が「私たち」と読むことの問題について議論しました。



## 英コミ・英語科

### Language Cloud(学生の勉学をサポート)

ランゲージクラウド(Language Cloud)は、教員が学生たちとインターネットで結びつく、そんな新しい学びのプラットフォームです。教室で学生たちと対面し行う従来型の講義や演習の効果を素晴らしく高めてくれるのはもちろん、今後の遠隔教育(distance education)のコース創りにも大きく道を拓くものとなります。極めて柔軟性に富み、担当者はクイズや試験問題を自主作成できずし、インターネットの講読テキストや動画コンテンツとリンクさせて、学生とディスカッションを行うことも可能です。ランゲージクラウドは、学生たちにとって素晴らしい便利な学習ツールとなるでしょう。



## 英語科

### 英語科の取り組み

英語科では、新1年生向けに English Assembly を計3回行いました。1回目は、5月に、数グループに分かれて、英語の劇、歌、プレゼンテーションなどを行いました。バリ島からの留学生がいるグループでは、バリ島の伝承の物語を英語で演じたりして、楽しい集会でした。学生同士が仲良くなる機会を提供できたのではないかと考えています。2回目は、7月、「はばたくウチナンチュ」から二人の英語科の先輩を迎えて、働く女性としての経験やアドバイスを話していただきました。すでに内定の決まった2年生からの就職活動に関する苦労話もあり、有意義な集まりだったと思います。3回目は1月末に開き、TOEIC testで高得点を獲得した学生を表彰しました。また、学生支援部から編入、留学、就職についてのレクチャーをいただきました。



保育科

## 地域に根ざす子育て支援実習(ワイワイプラザ in キリ短)

沖縄キリスト教短期大学保育科では1・2年次の合同クラスでワイワイプラザinキリ短を開催しています。この地域子育て支援は、学生が企画した遊びプログラムに子育て中の親子が参加し、子どもが主役の子育て空間を創造することを目的としています。このプログラムも2008年度からスタートし、今年度で6年になります。少しずつではありますが地域に浸透してきました。

ワイワイプラザの参加者からは、「毎回参加しています。この企画はとても良いです。」「楽しい時間をありがとうございます。」と言う声が聞かれました。また、企画をしている学生からは、「親子支援について勉強になった。」「親子の向き合う様子が見られて嬉しかった。」などという意見が多くありました。これからも、地域に根ざした地域子育て支援「ワイワイプラザinキリ短」が皆さんに愛される活動になるように保育科で提供していきます。



保育科

## 宮城島での児童館実習

写真は保育科2年次の高宮城夏子さん(左)とうるま市宮城児童館を利用している中3の女子2名です。遠くに小さく白く見える建物が宮城児童館・公民館です。2013年11月29日(金)訪問指導にうかがった筆者を、豊永栄子館長の促しによってふたりが案内してくれたのは、車で3分ほどの島随一の景勝地「シヌグ堂遺跡」(約3500~2400年前の集落跡)でした。

児童館は18歳未満のすべての子どもが開館中いつでも自由に遊べる(過ごせる)施設です。乳幼児と養育者の子育て支援も行い、地域の大人も自由に立ち寄れます。保育士養成課程において「施設実習Ⅱ」(2年次後期開設)の実習受け入れ施設のひとつとして指定されています。(2014年1月現在沖縄県内に69施設あります。)

宮城児童館は2つの点でユニークです。第一は地元の宮城自治会が指定管理者となっており、公民館と児童館が同じ建物を共用していること、第二は地元の幼稚園・小中学生の大半がほぼ毎日(水、金の夜は高校生も)利用していることです。

シヌグ堂遺跡から下りて、小さい子どもたちや中学生と一緒にドッジボールに興じる姿を横目で見ながら、館長先生に児童館に隣接している広場(スチナー)と宮城御殿(ナーグスクウドウン)を案内していただきました。

夏子さんの脇にはこの広場や海で遊ぶ子どもたちののびのびとした姿が焼き付いているそうです。(保育科 川西 康裕)



総合教育系

## 総合教育系第4回平和研修ツアー報告

これまで本島南部で2回(おもに糸満市周辺)、また本島中部(中城村、北谷町、嘉手納町、読谷村)で1回の計3回、平和研修ツアーを実施してきた。

7月、沖縄キリスト教センターの又吉さんに大学近辺の戦跡を案内していただいた。大学近くの戦跡で行程を組んで欲しいと最初から依頼した。普段の通学で何気なく目にする風景の中にある場所場所で、現代を生きる我々が想像もできないような出来事や情景が、かつて事実としてあったことを学生たちに知って欲しいという願いがあったからだ。午前中は西原町内の戦跡を案内していただいた。戦前の日本軍は、アメリカ軍が東から攻めてくると予想し、本島東側の斜面に位置する西原町に多くの陣地を築いていた。その陣地を目標に多くの攻撃を受けた西原町は、当時の人口に対する犠牲者の数(犠牲率)が市町村の中で最も高い。この大学から見える丘の全てで壮絶な戦いがあり、多くの命が失われていったことを知る。そんな事実すら知らずに、日々この西原の丘で過ごしていることを恥じる。

又吉さんの穏やかな語りの中にある強く確かな想い、そして身近にある歴史が、十二分に学生たちにも伝わったと感じている。継続して実施していきたい。



# 2013年度 卒業生の 就職・進路

## 就職

### 感謝。

沖縄キリスト教学院大学 英語コミュニケーション学科

【県内銀行(総合職)内定】城間 彩花



私は、挑戦し続ける学生生活を送ってきました。私が挑戦し続けてこられたのは素晴らしいキリ学環境があったからだと思います。2年次には本学の留学制度を利用し、在学留学をしました。帰国後の3年次には就活を本学のキャリア支援課が提供しているセミナー等に参加する事から始め、3年次の12月からは合同企業説明会に積極的に参加し、自身の就活スタイルを確立しました。内定も頂き、卒業します。私は、素晴らしいキリ学環境で4年間過ごすことができ本当に幸せです。在学生の皆さんも充実したキリ学生生活を送ってください！

## 進学

### 目標へ向かって

沖縄キリスト教学院大学 英語コミュニケーション学科

【琉球大学大学院人文社会科学研究科】進学 吉濱 英作



振り返ると大学で4年間学んだことは私の人生で1番密度の濃い貴重なものだったと思います。入学当初、通訳・翻訳業に携わる仕事をする目標を持ち学生生活は語学力を磨く日々を送りました。3年次に留学したとき、学問を究めたいと思い始め、帰国後学者・研究者の道を進もうと考え、大学院進学を決めました。通訳・翻訳の目標は大学院で学んだ専門知識で活かそうと考えております。在学生の皆さん、目標や進路で悩むことがあります。目標を作り日々実行し続ければ必ず自分の進むべき道を切り開くことができます。

### 私の学校生活は“学び知る”こと満載でした

沖縄キリスト教短期大学 英語科

【県内ホテル業】内定 金城 亜依



私が大学に進学したのは、英語を勉強するためでした。ですが実際学校生活が始まり学んだのは英語以外の事の方が多かったと思います。それは社会や自由、自分自身のことについてです。将来私たちが生きていく社会や地域に必要とされているものがなんであるかとも考えさせられ、自由という言葉の本当の自由さというも体感しました。そして自分が観光業という視点から、沖縄の抱える問題と向き合い、沖縄に熱中するきっかけを人に与えることのできる“うちなんちゅ”になりたいという人格目標をたどり知る事ができました。学校は、ただ勉強するのではなく“知る”“考える”“体験する”“挑戦する”ことのできるとてもいい環境です。私はそのことが皆さんに伝わればいいと思います。

### 私が編入を決めた理由

沖縄キリスト教短期大学 英語科

【沖縄キリスト教学院大学人文学部】編入 當山 美佑



私にとってこの2年間の短大生活はあっという間に過ぎていきました。勉強とバイトを両立させる事に必死になり、1年次は自分の将来について考える事があまりありませんでした。2年次になり周りの友達が就活をしている姿を見て、私も将来について考えるようになりました。しかし「自分が本当にやりたい事が何なのか」が分からず悩んだ結果、進学する事に決めました。「進学する事で将来の選択肢が広がるし、色々な経験をして将来についてちゃんと考える事が出来る」と考えたからです。進路に悩んでいる方は進学も考えてみて下さい。

### 夢を叶える

沖縄キリスト教短期大学 保育科

【県内公立幼稚園】内定 吉嶺 沙樹



私は幼稚園生の時の担任に憧れて幼稚園教諭を目指しました。地元で働きたいということから公立の幼稚園を目標に、1年次から本学の公務員講座や保育士模試を利用しました。2年次からは予備校に行くなど、学外でも取り組みました。また、アルバイトを通して社会勉強できたことも就活をする上でプラスになったと思います。まだ、自分は何になりたいか悩んでる人もたくさんいると思います。学生生活は本当に短いです。少しずつ出来ることをすることがいつか自分の夢に繋がると思います。

### 乗り越えた先に見えた新たな目標

沖縄キリスト教短期大学 保育科

【福岡女学院大学人間関係学部】編入 石坂 みや



「2年間はあっという間に過ぎていくよ」入学当初、この言葉を何回聞いたかわかりません。その言葉通り2年間はあっという間に過ぎていきましたが、自分自身が成長することのできたとても充実したものだったからこそ時間が過ぎるのが早く感じたのだと思います。課題の多さにくじけそうになる事や、こんな自分に実習を乗り切ることができるのか不安に押しつぶされそうになる時もありました。しかし、同じ夢を持つ仲間と保育について語りあえる環境が私の「保育者になりたい」という思いを強くしてくれたので乗り越えることができたと感じています。そして一つ一つ乗り越える度に「自分ならできる、大丈夫」と自分に自信が持てるようになりました。そこでついた自信は「もっと保育について学びたい」という気持ちにつながり、大学へ編入することを決めました。学生生活は大変で、やめてしまいたいと思うこともあるかもしれませんが、それを乗り越えた先にはきっと目指す道が見えてくると思います。諦めずに、時には友達と息抜きをしながら頑張ってください。



仲村 渠 美千枝  
英語コミュニケーション学科 2期

## 思い切り伸ばせた「可能性」

琉球大学理学部を卒業して数年後、海外旅行をきっかけに英語に目覚めた私は、家庭教師という経験を通して、英語を教える楽しさと、生徒の成長を支える喜びを感じ、英語教師になることを決めました。キリ学編入後は、英語教師の資質を磨くことに励み、山里先生の課外の勉強会や月曜礼拝の同時通訳、村田先生のラジオ英会話サークルなどに参加しました。検定試験にも力を入れ、大学の奨学金を得て留学することも実現できました。また、小学校英語ボランティアや塾講師を通して、教え方を磨く努力もしました。しかし、一生懸命に教員免許を取得したにもかかわらず、大学卒業後の私は、実習生ではなく本当に先生としてやっていけるのか自信がなく、そのせいか、申し込んでいた臨時教諭のチャンスもなかなか来ません。採用試験だけは別で働きながら挑戦してはいましたが、失敗の連続。複雑な思いの中、村田先生から「やってみたら？」と高校の非

常勤のお話をいただき、2年後にようやく教職の道を歩み始めることができました。現在は中学校で臨時教諭として担任をしています。初めも今も、不安な場面や生徒に困らされることは多いです。しかし、年間を通して生徒の英語力やいろんな面がだんだんと育っていく様子を見ることや、周りの先生方と協力していくことが面白く、教員という仕事にやりがいを感じています。

教員採用試験は今回で6回目。仕事をしながらの勉強は厳しかったのですが、最低でも毎日1時間、休日にまとめて勉強をしました。なかなか実を結ばない状況に落ち込んだ時は、キリ学の恩師を訪ねたり、大学同期の仲間と励まし合ったりしながらなんとか勉強を続け、ついに合格することができました。キリ学で自分の可能性を思いきり伸ばすことができたおかげで、私の今があります。やりたいことに挑戦する機会を与えてもらい、親身に支えてくださった先生方や、一緒にがんばる仲間と出会えたことで、努力し続けることができました。この経験をばねに、これからも学び続けながら、いろいろなことを子どもたちに還元していきたいと思えます。

### 略歴

- |                 |                                       |                 |                               |
|-----------------|---------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 2002. 3         | 琉球大学理学部物質地球科学科卒業、ファッションモデル兼フリーターとして勤務 | 2009. 9         | ティカレッジ 短期留学<br>沖縄キリスト教学院大学 卒業 |
| 2005. 9～2006. 3 | アメリカ滞在(3ヶ月)、帰国後、家庭教師を務める              |                 | アルバイトや市役所での臨時職員として勤務          |
| 2006. 4         | 沖縄キリスト教学院大学 2年次編入                     | 2011. 4～2012. 3 | 与勝高校 非常勤講師(英語)                |
| 2008. 9～2009. 3 | アメリカオレゴン州 ポートランドコミュニ                  | 2012. 4～現在      | 恩納中学校 臨時教諭                    |

## 夢を叶えるために

根間 朝子

英語コミュニケーション学科 4期

今年度の教員採用試験は7回目の挑戦でした。毎年、一次試験で落ちてしまい採用試験合格は夢に終わるのではないかと不安な日々が続きました。それでも、諦めるのはまだ早い、とこれまでの自分の経験を信じて、今回の試験に臨みました。最終の合格通知を頂いた時の喜びは大きく、また、これまで支えて頂いた多くの方への感謝の気持ちでいっぱいでした。

私が教師を目指したのは、中学生の頃。その頃はまだ漠然とした憧れでしかありませんでしたが、高校・大学と好きだった英語を専門的に学び続けることができ、英語教師という選択肢が見えてきました。

初めて学校現場に入った時は、学級指導も教科指導も何をやってもうまくいかず、苦しい毎日でした。途中、「自分は教員に向いていないのではないか・・・」と、挫折しそうになりましたが、様々な場面で気づかされる生徒の成長を見てると、教師という職業の魅力にますます惹かれ、一年が過ぎる頃にはこの仕事を続けようとして心に決めていました。現場経験を通して英語教師としての専門的知識の不十分さを感じ、大学編入を決めまし

た。在学中は教師としての専門的知識だけでなく広い視野で経験を積みたいと考え、多くの事に挑戦しました。同時通訳やサマーキャンプでの平和学習、スピーチコンテストや国連大学への参加など、それぞれの経験の中に新たな発見があり、チャレンジする事の意義深さを学びました。また、学ぶことの意義を改めて考えることができ、再び教壇に立つ時、生徒に伝えたいと思いました。

私は、教師という夢を実現させるまでにすごく時間がかかりました。その間、焦りや不安もありましたが、これまで準備してきたことが実を結び、今、ようやくスタートラインに立てる喜びを感じています。また、これまで多くの信頼できる人との関わりが私を成長させてくれました。私も、生徒に真摯に向き合い、様々な場面で適切な支援や指導ができるよう努めていこうと、気を引き締めています。

すぐに芽は出なくとも、小さな積み重ねが確実に自分の力の蓄えとなっていることを信じて、今後も成長し続けたいです。

### 略歴

- |          |                             |            |                     |
|----------|-----------------------------|------------|---------------------|
| 2003. 3  | キリスト教短期大学 英語科 卒業            | 2012. 4～   | 恩納村にて、学習支援員として勤務    |
| 2007. 4～ | 浦添市にて、臨時教諭として勤務             | 2013. 4～現在 | 那覇市の中学校にて、臨時教諭として勤務 |
| 2009. 4  | キリスト教学院大学 英語コミュニケーション学科 編入学 |            |                     |
| 2011. 3  | キリスト教学院大学 英語コミュニケーション学科 卒業  |            |                     |



## キャンパスカレンダー



4月 スポーツデー



5月 新入生オリエンテーションキャンプ(英コミ)



6月 オープンキャンパス



7月 全学集会 セタ祭



11月 キリ学祭



10月 ハロウィン



9月 秋季入学式



8月 サマー聖書キャンプ



12月 クリスマス礼拝



1月 新年礼拝



2月 ハワイ研修・海外幼児教育研修



3月 卒業式

## 入学式

2013年4月1日

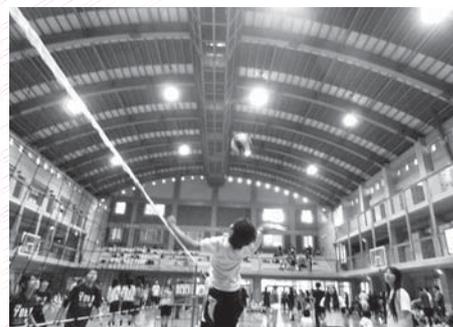
沖縄キリスト教短期大学(第57回)、沖縄キリスト教学院大学(第10回)、沖縄キリスト教学院大学大学院(第6回)入学式が本学体育館で執り行われました。期待に胸をふくらませ、短期大学198名(英語科新入生94名、転入学・転科各1名、保育科新入生102名)、学院大学116名(新入生108名、編入学生7名、再入学1名)、大学院4名が入学しました。田里彩奈さん(英語科)、伊禮彩乃さん(保育科)、島袋祐さん(英語コミュニケーション学科)の3名が新入生代表として挨拶を行いました。また、10月1日に、沖縄キリスト教短期大学(第20回)、沖縄キリスト教学院大学(第3回)秋季入学式が本学チャペルにて執り行われ、新入生2名(短大英語科・大学各1名)、英語科転入生1名が入学しました。



## スポーツデー

2013年4月20日(土)

学生会主催で新入生歓迎のスポーツデーを開催しました。クラス対抗のトーナメント方式で、バレーボールや四面ドッジボールを行いました。各クラスともお揃いのユニホームを作成し、一致団結!エキサイティングなプレーや応援合戦で盛り上がりました。



## 新入生オリエンテーション

### ■大学

新入生オリエンテーションキャンプは、あいにく梅雨入りと重なり、肌寒さが残る五月、渡嘉敷島に到着すると雨に迎えられました。海洋研修の日にはなぜか奇跡的に晴れるのですが、今年度は朝から土砂降り。体育館で代替プログラムを準備しました。ぐずついた空とは対照的に、新入生は底抜けに明るく、海にいけなくても元気いっぱいでした。

参加型のワークショップをふんだんに盛り込んだ今年度のキャンプでは、かつてないほど学生たちの絆が強まりました。体育館という一つの空間を共有し、よりインタラクティブなプログラムをおこなうことで、学生たちはお互いに向き合いました。あれはもしかしたら恵みの雨だったのかもしれない。



### ■短期大学

短期大学では、本年度から新しいプログラムでスタートした。「建学の理念」「アカデミック」「人間関係の構築」の三本柱は堅持しつつ、特に、「アカデミックオリエンテーション」の一層の充実を図るコンセプトで、1975年度から渡嘉敷島で実施されてきた場所を、学内に移して、入学早々、4月4日に実施した。

午前は、開会礼拝、金城重明先生のご講演の後、英語科、保育科独自の「アカデミックオリエンテーションⅠ」、昼食には中庭にてバーベキュー及び盛り付けコンクール、引き続きチャペルにて、総合教育系の「大学で学ぶ意義」の講義があった。

午後は、各学科の「アカデミックオリエンテーションⅡ」、後半はキャリア支援課、教務課、学生課の説明があり、教職員が一体となった協働態勢で実施された。この活動内容は、「2013年度短期大学新入生オリエンテーション報告書(32頁)」にまとめた。(短期大学部長 大山伸子)



## 第49回 キリ学祭

### テーマ

## We'll always have Kanasa ~愛はいつもここに~

2013年11月9日・10日

2013年度の大学祭実行委員は「人と人の絆」をテーマに掲げ、今年度のメンバーにしかできない最高の大学祭にしたいと思っていました。今までとは違った大学祭を企画し、アーティストだけでなく、「さうんど保育園」園児の皆さんや「西原高校マーチングバンド部」の皆さんにも出演を依頼しました。結果は、予想以上に好評で、キリ学キリ短の特色が出ていて良かったと思いました。小さなキャンパスだからこそ創れる大きな感動を証明したと思います。教職員、先輩後輩、来場者、地域の皆さまのご協力のお陰で、成功することができました。とても感謝しています。ありがとうございました。(学生会長/外間桜子)





金城 仁

英語コミュニケーション学科 1期

## 「経験」を活かす

2005年に、キリ短を卒業した私は、約1年間オーストラリアへ留学しました。留学先は語学学校ではなくファームステイ。そこでは、農場を体験できるペンションのような場所で、世界中から体験に訪れる客人と出会った経験は、今まで沖縄からでたことがなく、何かを自ら行動するという自信がなかった私にとって何ものにも代えがたい経験でした。

帰国後はキリ学へ3年次編入をし、1期生として卒業することができました。卒業後は、JAおきなわへ就職することとなったのですが、初めて配属された部署が経理情報部という専門的な部署で、3年間かけて新しいシステムへと移行するプロジェクトチームでした。最初は、「おいおい、就職したての新人をこんな重大なプロジェクトチームにおいて大丈夫かよ」と思いましたが、ここで活かされたのがキリ学で学んだ総合的な学習でした。パソコンで作業工程の作成や、職員向けの集合研修で研修講師を担当したり、新システムがどのように使えるかのプレ

ゼン等、どれも大学の講義で学んだものであり、その経験がなければどれもうまくできなかったのではないかと感じてしまいます。

新システムは無事に稼働したのち、2011年から佐敷支店組合員課へ異動となりました。そこでは、支店の予算管理や庶務全般と支店に係るさまざまな業務を任せられ、支店長・副支店長の補佐的な役割として日々の業務に取り組んでいます。

現在の職場では英語を使う環境ではないのですが、年配のお客様が使われるウチナーグチは、私にとって新しく習う外国語のような存在です。私が知っている若者方言とはまったく異なるもので、よく聞き返したりして「最近の若者はウチナーグチも知らんのか」と言われることもよくありますが、そこは大学時代に学んだコミュニケーション力でうまく乗り越えているつもりです。学生から離れても日々勉強の毎日ですが、職員・組合員に支えられとても充実した仕事生活を過ごせていると思います。

学生のみなさんも将来のことで不安なところもあると思いますが、学生時代に経験した事はすべて意味のあるものだと思うので、自信をもって充実した学生生活を過ごしてください。

### 略歴

2005.3～ 沖縄キリスト教短期大学 英語科卒業  
 2005.4～2006.1 オーストラリアで、ファームステイ  
 2006.4～ 沖縄キリスト教学院大学  
 人文学部英語コミュニケーション学科3年次編入  
 2008.3 同大学卒業

2008.4 沖縄県農業協同組合(JAおきなわ)就職 本店経理情報部のシステム移行班に配属(3年後、無事新システム稼働)  
 2011.4～ JAおきなわ佐敷支店組合員課に異動 庶務全般を任せられ現在に至る。



中村 秀一朗

英語コミュニケーション学科 3期

## 1cmでも前に

去った11月22日に「卒業生との交流パネルディスカッション」と題された、在学生と卒業生の交流会に卒業生代表として参加させて頂きました。私に加え、各分野で活躍されている卒業生の方々と在学生とのパネルディスカッションという形で交流会は進みましたが、在学生からの質問は単に就職に関するものだけでなく、勉強方法やさらには人生観に至る質問まで飛び出し、非常に内容の濃い交流会となりました。キャリア支援課をはじめこの交流会の企画および推進に携わっていただいた方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

私は本大学の3年生の時に消防士の試験に合格し、採用していただきました。すぐに勤務を命じられたので、そのまま大学を辞めて仕事に専念することもできましたがどうしても大学卒業の資格をほしかったので、消防長からの許可を得て消防士と大学生という二足の草鞋をはいて、最終的に大学を卒業する

ことができました。現在では大学院に進学し、仕事を続けながら防災教育をテーマに修士論文を執筆しています。これまで、多くの人に「なぜそこまで生き急ぐのか」と聞かれました。理由はいたって簡単で、仕事に私より若い人が命を落とす場面を幾度となく目の当たりにしてきたからです。成人の傷病者だけでなく、生後半年にも満たない乳児の死にも遭遇しました。これらの経験から、人生で私に残された時間はあとどれくらいあるのかと真剣に考えるようになりました。毎日思いつめて生きるのには確かに窮屈ですが、仕事や勉強に遊びはもちろん、児童施設でのボランティア活動もするようになりました。自分の生き方、生活する場所、そして生きる「速度」を決めるのは自分次第です。人生はよくマラソンに例えられますが、そうであるのなら私は1cmでも前に進みたいと考えます。誠に僭越ながら、私から在学生へのアドバイスとしては「背伸び」をすることです。勉強、仕事だけでなくプライベートにおいても、常に一つ上のレベルにいる自分をイメージして生きることが重要だと考えます。これからも本大学の学生の発展と飛躍を心より願っております。

### 略歴

普天間高等学校卒業  
 2006 沖縄キリスト教学院大学入学  
 2009 嘉手納基地消防隊 入隊

2011 沖縄キリスト教学院大学卒業  
 2012 吉備国際大学 連合国際協力科(通信) 修士課程 入学  
 現在に至る



井上 亮馬  
英語科 41期

## キリ短では3つの収穫がありました。 英語・バスケットボール・対人間コミュニケーションです。

キリ短での2年間とてもとても楽しい学校生活でした(勉強面は苦労しましたが)。英語以外ではバスケットボールチームでの仲間達との出会いが今の僕を形作っていると感じています。

チームメイトは僕たち現役学生だけではなく、OBや外部の方、外国人など様々なメンバーがいて学生の枠に収まらない人間関係が作れました。

僕はどちらかというと“lazy”な学生でしたが、バスケットボールによって英語力と、同時に根性まで叩き直されました(現在教壇に立たれているS.Y.さんは特に親身にそして厳しく…とても厳しく僕を鍛えてくれました)。

現在僕は東京で会社を経営し主に医療・スポーツ分野の事業を展開しています。現在の仕事と英語は別分野のようにみなさんは感じるかもしれません。学業の次(?)に熱中したバスケットボールに社会に出ても携わっていたいという気持ちが強くトレーナーになると決意し、そこから現在の形になりました。

キリ短で身につけた英語力は現在の仕事でも十分に活かすことが出来ています。外国人クライアントさんとのパーソナルトレーニング契約や、現在進行中の事業では外国人を雇っています。“Connecting the dots” みなさんも聞いたことがあると思います。キリ短で学んだ英語に、熱中したバスケットボール、そして誰とでも垣根なく接する気持ち、その小さな3つの点が繋がったときに大きな仕事になりました。Lazyな学生が、学業以外に熱中できることを見つけ、先生方や仲間など周りのサポートによりなんとか卒業、四大編入。そして現在東京で起業し会社を経営。事業もすべて“人”なしには行えません。

キリ短での2年間がその後の人生の方向を決めました。まだまだ短い僕の人生ですが一番楽しかった学生生活はと聞かれると間違いなくキリ短での2年間だと答えます(勉強辛かったけど)。みなさんも学生のうちに何か熱中できることを見つけてみて下さい。英語とそれが繋がったとき、その後の人生が今以上に充実し、楽しくなりますよ！

### 略歴

株式会社 Physioflex 代表取締役

英語科 41期



大城 美奈子  
保育科 52期

## 子ども達の笑顔がパワーに！ 子どもと共に成長できる、やりがいのある仕事

「幼稚園の先生になりたい！」そう思い始めたのも、私が幼稚園生の頃の楽しかった思い出があったおかげでした。現在、幼稚園教諭4年目になりますが、学生の頃に思い描いていたよりも、実際の現場に入ってみると、保育の大変さや難しさを感じる

ことが多々あります。そんな時は、学生時代に習った事や、「子ども達の笑顔を引き出せる先生になりたいな。」と、必死で勉強したことを思い出し、初心を忘れないように心がけています。

学生時代は、講義で勉強する他にも、児童文化研究サークルで実際にいろんな保育園へ出向いて人形劇などを公演し、子ども達とかかわっていました。その中で、子ども達の内面の動きや発する言葉など一つ一つの行動がとても純粋で、素直なことに感動したのを覚えています。それからは、子ども達の心に寄り添って、様々

な感動を共有できる教師になりたいと思い、就職試験へ向けて勉強を始めました。公立幼稚園に絞って就職活動をし、週1回の公務員講座を受けていました。先生方には就職のことを相談したり、今の幼稚園ではどうしているかなどの情報を聞くことができ、力強いサポートを受けることができました。どの先生も親身になって支えてくれて、不安な気持ちがあっても、前向きに頑張ることができました。今でも、保育のことで悩んだ時には先生に相談したりして、支えてもらっています。

保育には様々な考え方ややり方があると思いますが、私は、保育は子ども達が主体だと思っています。そして、そのサポート役として、日々子ども達が笑顔で過ごせるよう、頑張っています。これからも、子どもの目線に立って、子どものことを理解してあげられる幼稚園教諭で居続けたいです。子ども達と共に、笑ったり、時には泣いたりしながら、共に成長していきたいと思っています。

### 略歴

保育科 2010年卒業(那覇国際高校出身)／公立幼稚園

## サマー聖書キャンプ 2013年8月21日～23日

### 聖書と沖縄戦の学びの分かち合い

2013年8月21日から3日間、本学学生9名と教員2名に、福岡女学院大学の学生4名を迎えて、サマー聖書キャンプを実施しました。当初は渡嘉敷島に渡る予定でしたが、台風の影響により急遽、本島内でプログラムを実施しました。私達は1日目で対馬丸記念館とひめゆり記念館を巡り、2日目以降は今帰仁村にある北山荘にて海水浴、聖書の学び、福岡女学院大学学生による博多方言の紹介を持ちました。

本学の学生にとって平和研修及び聖書の学びを他大学の学生との交流を通して体験できたことは有意義な体験でした。また福岡女学院の学生にとっても、沖縄戦を沖縄の地で一般住民の視点から学ぶことができたことは大きな収穫であったようです。



## 後期キリスト教講演会 2013年10月28日～11月1日

### 周縁化されることとすること—戦争と差別 (エフェソ 2:14-16)

福岡女学院大学院院長・学長木ノ協悦郎先生から、奄美と沖縄の歴史と琉球文化、キリスト教史における周縁化の例、聖書テキストからのメッセージ、という3つの視点から講演を拝聴しました。キリストに示された「平和」を希求し、「隣人愛」と「奉仕」を教育の基盤とした本学の建学の精神を再確認する意味で、本講演は実に教唆に富むものでありました。また、今後国内外において様々な種類の少数者を「周縁化」することを回避し、共生社会を建設するために、複眼的な視点を持つことの大切さも学んだ講演でありました。



## クリスマス礼拝・祝会 2013年12月20日

### 皆でつくったクリスマス行事

去る12月20日に標記の重要行事を実施しました。第1部の礼拝では、聖書のクリスマス・ストーリーに沿って、日本語、うちなーぐち、諸外国語で聖書が朗読され、キャロルの合唱や説教が厳粛な雰囲気の中で行われました。今年は聖書朗読にドイツ語を加え、オーケストラに本学アンサンブル・サークルのメンバーも参加した点で、より国際的かつ学生参加型の豊かな礼拝にすることができました。また礼拝の中で、フィリピン台風被災者を支援する日本YMCA同盟をはじめとする6団体のために尊い献金も捧げられました。

第2部の祝会では、学生宗教員(保育科1年生)による創意ある司会のもと、おいしい食事を囲んで学生、教職員、本学関係者と共に楽しい交流と語らいの時を持ちました。今回、様々な形でご奉仕・ご協力頂いた教職員、学生の皆様に心より感謝申し上げます。



## 沖縄キリスト教平和研究所

### 研究所の一年

今回は2件だけ報告します。

その一つは、日本基督教団の震災対策室の依頼を受けてAct for 東北とTeam 琉球のメンバーたちが東北キッズ保養プログラムを迎えて渡嘉敷で保養プログラムに参加したこと。小・中学生20名と8月7日から11日まで楽しい時を過ごした。二つ目は、本研究所の発案で「キリスト教主義大学学生による沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」を沖縄で開催したこと。8大学から30名の学生が集い、熱心に平和について協議した。参加者の感想は3泊4日の日程は短いとの意見があり、来年は1週間を予定して計画することが話し合われた。より充実した企画になることを期待したい。(所長/大城 実)



## ハワイ研修・海外幼児教育研修

2013年2月12日～28日

本学では、春季海外研修として約2週間の「ハワイ研修」、「海外幼児教育研修」を実施しています。(2013年度研修日程:2014年2月12日～28日)

本研修では、協定校であるUniversity of Hawaii Kauai Community Collegeへ訪問し英語のトレーニングはもちろんのこと、現地学生との交流、Hulaや工芸などのハワイ伝統文化の体験学習プログラムも用意されており、ハワイの温かいホスピタリティを感じながらの他者理解力を身に付けることができます。また、各研修に特化して、英語コミュニケーション学科・英語科学生が参加する「ハワイ研修」では、ハワイの観光ビジネスについて学び、保育科学生の「海外幼児教育研修」では、ハワイの幼児教育施設を見学します。

参加した学生からは「全て英語での授業は難しかったが、逆にやる気も出て楽しかった。」「保育園訪問がとても楽しく、良い勉強になりました!!」等の感想や、本研修参加後、Hawaiiへの興味、異文化への興味が強くなり留学を決める学生もおり、参加学生の「世界」を広げるプログラムとなっています。



## 沖縄文化講演会

2013年11月9日

2013年11月9日(土)に本学チャペルにて沖縄文化講演会(沖縄地域留学推進協議会主催)を開催しました。本短期大学卒業生(保育科第15期)である桑江純子さんが主宰している人形劇団「かじまやあ」をお招きし、人形劇「キジムナー」の公演をして頂きました。県内各大学の外国人留学生を始め老若男女たくさんのお客様総勢106名が来場し、人形劇を通じて沖縄の文化を楽しんでいました。迫力ある人形の動きを目の前にし会場はとても盛り上がりを見せ、公演後には参加者の皆さんに実際に人形に触れてもらい、大盛況のうちに幕を閉じました。



## 第3回 ESD研修会

- 日程/2013年12月14日 ●講師/友寄 ゆかり 氏(こども園まある)小倉 宏樹 氏(よみたん自然学校)
- コーディネーター/張本 文昭(沖縄キリスト教短期大学)

本学はASPUivNet<sup>\*1</sup>に加盟した2011年以降、ユネスコスクール<sup>\*2</sup>の普及とESD推進のためのESD研修会開催などに取り組んでいます。

今年度実施しました講演では「幼児期の豊かな体験とESD」をテーマとし、独自の理念と思想のもと10年近くにわたってユニークな実践を続けている「こども園まある」の友寄ゆかりさんと、「よみたん自然学校」の小倉宏樹さんをお迎えし、活動のねらいや子どもたちの体験の様子などを話していただきました。(参加者:約55名)

幼稚園・保育園関係者が多く参加し、質疑応答の時間ではそれぞれ保育従事者としての保育への取り組み方や他園の保育方針等、活発な意見が飛び交う、質の高い情報共有の時間を持つことができました。



※1 ASPUnivNetとは

ユネスコ憲章に示された理念(教育・文化活動等を通じて世界の平和や安全に貢献すること)を学校現場で実践することを目的として設立された「ユネスコスクール・プロジェクト・ネットワーク」を支援するための大学間ネットワークです。

※2 ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に賛同し、平和や国際的な活動を連携して実践する学校で世界180カ国で約9,000校以上の学校が加盟しています。日本全体でも647校(2013年12月現在)の幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。

### キャリア支援課

#### 進路セミナー 【2013年6月12日】

全学科1年次を対象に、「進路セミナー」を開催しました。

2013年度より、学生支援部立ち上げにあわせ、進学、就職、留学と進路について早期に幅広く考えてもらうプログラムとし、学生課、キャリア支援課、国際平和文化交流センターと協力し春の開催としました。「キャリアについて考える」のプログラムでは、2つのテーマを設定し、「大学生活を充実するには」のテーマでは、目的を持って大学生活を送る事や授業、サークル活動、ボランティア活動、何事も一生懸命に取り組む事を学びました。「女子学生のキャリア教育」のテーマでは、仕事、結婚、出産と3つの人生ステージを持つ女性は、自分の人生をしっかり計画を立て責任ある行動をする事の重要性を学びました。また、「沖縄基地の街 女性たちはいま」のDVD鑑賞を通し、女子学生は自分自身の、男子学生はパートナーと生きる事を考えるきっかけとなりました。「進路について考える」のプログラムでは、学科毎に分かれ、各学科の特徴にあわせた内容で実施され、自分自身が目指す進路についての情報収集や具体的なアクションの方法を学びました。「OB・OGパネルディスカッション」のプログラムでは、各学科卒業生3名が学生時代の話や社会人としての経験を踏まえて、学生に対するアドバイスや学生時代の学びが現在の職場で活かしている事などを伝えていただきました。参加学生からは「キャリアを見据えて大学生活を過ごすことが大切であり、しっかりプランを立てて行動することが重要だと感じました。」等の感想があり、将来の進路について真剣に考える良い機会となりました。



#### 就職キックオフ宿泊セミナー 【2013年10月26日～27日】

四大3年次、短大1年次を対象に「就職キックオフ宿泊セミナー」を開催しました。

12月から始まる就職活動に向けた心構えや自ら就職情報を取りに行く事、能動的に行動する大切さを学んでもらうことを目的にしています。

2日間のセミナーでは、就職活動の進め方やスケジュール、マナー、注意点や各業界を代表する企業が参加して業界研究、グループワーク、筆記試験など就職活動に必要な要素についての学びを深めました。学生は、今回のセミナーを通して、なぜ新卒で就職する事が大事なのか等、今後の就職活動に対する意欲を高める良い機会となりました。



東京中小企業家同友会主催

#### 元山和仁記念「社長弟子入りツアー」【2013年9月23日～28日】

昨年度に続き今年度も本学より4名(英語コミュニケーション学科3年次、新垣美桜さん、上原浩弥さん、英語科1年次の儀保香菜子さん、與座ゆりあさん)の学生が参加いたしました。

同ツアーは、通常のインターンシップでは体験できない、第一線で活躍されている東京の経営者に数日間密着し、経営者の行動や理念に触れることにより、ビジネスの最前線を肌で体験することを目的にしています。研修を終えた参加者は、「事前準備の大切さ」、「目的意識を持って取組むことの大切さ」、「社会人としてのマナーや言葉遣い」また、「経営者それぞれの考えや視点」など多くのことを学ぶ事ができたようです。今回参加したことで、中小企業に対するイメージも大きく変わり、学生たちの就職活動に大いに役立つ事業となりました。



### 学習支援センター

学習支援センターでは、学生の皆さんの学習活動をサポートしています。基礎学力に自信がない人、伸び悩んでいる人、勉強に集中できない人、どうぞ気軽に相談に来てください。どのようにすれば効率の良い学習が実現でき、学力を伸ばすことができるのか、一緒に考えて行きましょう。

#### 学習支援センター各種講座について

■小論文講座:書く力は、一朝一夕に身に付くものではありません。多角的に物事を考え、それを論理的に表現する作文能力が必要となります。本講座では、考える力と作文能力を、時間をかけ着実に養成していきます。

■基礎英語文法:外国語の運用能力を身につけるためには、丸覚えではなく、表現の「形」を覚えなければなりません。その基本となるのが文法です。文法はけっして無味簡素なものではなく、外国語能力を向上させてくれる極めて有用な知識です。しっかりと文法を学んで行きましょう。

■映画英語講座:文字どおり「生きた教材」といえる映画を教材にして、実際ネイティブが使っている英語を理解し、その「形」を学んで行きましょう。

■中国語講座:発音と声調コントロールが難しい中国語は、頭を鍛えるのによってつけの外国語。中国語を学ぶことで、相乗的に英語力のアップも期待できます。世界は広く、世界で活躍する人材となるには、英語プラスアルファの外国語が求められています。





## 図書館主催講演会開催・パネル展示

沖縄キリスト教学院図書館主催講演会「沖縄戦トラウマによるストレス症候群」(共催/沖縄キリスト教平和研究所)が開催され、学内外からおよそ70名の参加がありました。

講演会に連動して、写真パネルや関連図書を図書館ロビーに展示しました。

「沖縄戦トラウマ」について、6/13朝日新聞に特集記事が掲載されるなど社会的にも注目を浴びる中での開催となり、その模様は、翌日の琉球新報・沖縄タイムスにも詳しく報道されました。

- 講演日時: 2013年6月15日(土) 14:00~16:00
- 演 題: 「沖縄戦トラウマによるストレス症候群」
- 講 師: 蟻塚 亮二 先生 「メンタルクリニックなごみ」所長
- 会 場: 本学SHALOM会館1-1教室
- 関連図書・パネル展示: 2013年6月13日(木)~28日(金)



## 「就活本」フェア

キャリア支援課と図書課の協力企画として4月と10月に開催しました。

- 4月 「『就活』、最初の一歩は『図書館』で」をコピーとし、新入生向けに「就活」、「就職」、「仕事」をイメージするような本を40冊ほど展示しました。
- 9月 「内定学生のおススメ本」の紹介をメインに、より実用的な本を中心に展示しました。

選書にご協力いただいた内定学生のみなさん、キャリア支援課に感謝申し上げます。



## 「聖書」フェア【10.28-11.7】

世界およそ50カ国の言語で書かれた聖書、ならびにベッテルハイムの聖書(琉球語訳)、またダリ画「ウルガタ聖書」など本学のキリスト教関連コレクションも展示しました。

\*なお「日本聖書協会」様からパネルや一部聖書をお借りました。





沖縄キリスト教短期大学  
保育科  
教授 山城 眞紀子

## しなやかな心と体の育ちを追い求めて

39年在職しました本学院を3月で退職いたします。本学報でご挨拶できる機会が与えられまして感謝です。多くの方々にお世話になり心よりお礼申し上げます。

1975年4月現在の総合教育系の前身である「一般教育」に赴任し、保育科の小橋川寛先生の退職によって、保育科に転籍して今日に至っています。舞踊教育学の研究を志していた私は、幼児の運動遊びや領域健康にかかわることになりました。駆け出しの私に現場の園長先生や保育者に「子どものこと保育のこと一緒に勉強しましょう」と声をかけて頂き、たくさんの教を請いながら、学生たちに向き合い保育者養成にかかわってきました。「ヒト」から「人間」に、人間らしい運動機能や社会機能の発達が乳幼児期の発達課題でもあるのです。そのためにしなやかな心と体の育ちが求められています。

本学保育科に在職しておられた照屋敏勝先生(京都文教短期大学名誉教授)は、ご自身が発行するエッセイ集「啐啄」(そったく)2号で、「保育者に必要な4つのしなやかさ」について書いています。先生は「保育者や教師はしなやかさや柔軟性が不可欠である。保育や教育の対象である乳幼児や子どもが柔軟でしなやかであるからである。」と述べ、1つは体のしなやかさ、2つは感性と感受性、3つは思考と発想のしなやかさと想像性の豊かさ、4つは表現のしなやかさと多様性をあげています。心と体のしなやかさは健康の根幹をなし、今日教育に求められている「生きる力」そのものだと考えます。

目まぐるしく変貌を遂げる現代にあって、社会にも組織にも「しなやかさ」が求められているように思えます。健康な心と体は表裏一体、体のそれぞれの器官もつながって機能しているよう、仕事をしていくうえでも同様だと感じます。私自身の教育実践の場である体育館やリズム室の体育用具等の環境整備も、総務課の山川常次主任はじめ、清掃をしてくださるの方々等多くの職員の支えがあり、授業がスムーズに進められてきました。感謝の一言に尽きます。

本学はこれまで「キリ短」の名で親しまれ、卒業生たちの働きが、社会での揺るぎない信頼と評価を築いてきました。今後も大学の使命を全うすべく、建学の精神を継承し、具現化した働き、地域に根差した人材養成に邁進して下さることを願っております。



沖縄キリスト教学院大学  
英語コミュニケーション学科  
教授 村田 典枝

## 退職の辞

この3月をもって退職することになりました。高校における20年の教員経験を経て2001年から本学院で教鞭をとってまいりました。その間、教職員・学生・そしてその他の多くの方々にお世話になりました。心よりお礼を申し上げます。

本学院における13年間、短大・四大の教職課程を継続して担当してきましたが、高校から短大へ移ってきた当初は、教員養成課程運営や中学校教育実習についての事前知識がなく戸惑うことばかりでした。また、当時は教育実習3週間制や介護等体験、小学校英語活動が導入されたばかりで、それらに対応する体制がまだ十分に整っておらず、混乱することも多々ありました。そのような中、様々な提案をしながら、私を励まし助けてくれたのは学生たちでした。2年間で教職課程を履修し、他大学の4年生と肩をならべて実習せねばならない短大生たちは、緊張感に充ち、意欲的でした。彼らと忙し

いながらも充実した日々を過ごしたことが今なつかしく思い出されます。

2004年、短大教職課程は40年にわたるその歴史に幕を降ろし、教職のバトンは新設された四大へと手渡されました。これにより、4年間の安定したカリキュラムの下での教職指導が可能となり、学生は中学校・高校の1種免許を取得できるようになりました。2014年度、四大は10周年を迎えますが、これまでに100人以上の学生が教職免許をもって卒業しました。現在、短大を含め、多数の卒業生が県内の学校現場で活躍しています。

教師生活の最後を本学で過ごし、教員養成に携わることができたのは幸せでした。忙しい毎日でしたが、教師の卵たちと関わることは楽しく、彼らの成長の様子を見ることは大きな喜びでした。心残りは、建学の精神を教職課程に反映させたいと強く思いながらも、具体的な形として残せなかったことです。力不足でした。しかし、本学における学びは彼らの人間力となり、今後それぞれが置かれた場において発揮されるものと信じております。

教職以外の多くの学生たちとの出会いも私の人生にとってかけがえのないものです。学生たちの伸びやかで繊細な能力に触れるたびに人間の可能性を実感し、教師になってよかったと思ったものです。現在の大学をとりまく環境は厳しいものがあります。しかし、本学は設立当初から建学の精神を柱に幾多の苦難を乗り越えてきました。今ある試練を乗り越え、本学が更に発展することを心よりお祈りいたします。



沖縄キリスト教学院大学  
英語コミュニケーション学科

准教授 **Geoffrey Sinha**

## 挑戦

私はニュージーランドのクライストチャーチという町で生まれ育ちました。ニュージーランドは、美しい自然と親切な人々、そしてたくさんの羊に囲まれたのどかな国で、英語を勉強するには最高の環境です。

1999年、大学在学中に私は日本人の女性と出会い、結婚しました。そしてしばらくして東京に引っ越しました。それまで、私はクライストチャーチはそれなりに大きな「街」だと思っていました。でも、始めて東京という大都会を訪れ、新宿の駅に降り立ち、この駅を毎日350万人の人が通過していると知って驚愕しました。350万人、それは当時のニュージーランドの人口と同じだったからです。

東京での10年間は、毎日が新しいことへの挑戦で、刺激的な日々でした。講師として働きながら大学院に通い、修士号をとりました。子供も2人生まれました。旅行の好きな私たちは、幼い子供達を連れて世界を旅しました。オーストラリア、バリ、マレーシア…そして沖縄に出会いました。沖縄の気候、文化、食事全てが好きになりました。2013年に神に導かれて沖縄キリスト教学院大学に移りました。ここでは、多くの挑戦と機会に恵まれています。

今私には3つの目標があります。まず、学生たちが自信を持って英語を話すようになる手助けをすることです。そしてそのために、留学することを強く勧めたいと思います。そのために自分の日本語力も向上させたいと思います。そうすれば他の先生や学生、また大学の「縁の下の力持ち」である素晴らしいスタッフとより密接な関係を構築することが出来ると思うからです。

## My Challenge

I was born and raised in Christchurch, New Zealand. New Zealand is a beautiful country, with lots of nature, friendly people, safety, and sheep. New Zealand is the perfect destination for study abroad.

In 1999 I met my future wife. We married in New Zealand and relocated to Tokyo. The year was 2000 and I was 25 years old.

Up until that time I had always believed that Christchurch was a big and modern city, but Tokyo really opened my eyes to the true meaning of "City". Not long after my arrival in Tokyo, I learned that more than 3.5 million people use Shinjuku station every single day. In 2000, 3.5 million was the entire population of New Zealand.

The next decade was one of teaching, learning, starting and raising a family and traveling. My wife and I have a particular fondness for travel and we have been fortunate to have had a number of unforgettable overseas trips in South East Asia, Australia and New Zealand and to share our love for this beautiful planet with our young children. We also came to Okinawa, and the warm climate, culture and delicious cuisine made an immediate impression on my wife and I.

In 2013, by the grace of God, I moved from Tokyo to begin teaching at Okinawa Christian University. There are many challenges ahead and also many opportunities.

I have 3 main goals for my time at this Okinawa Christian University. First of all, I aim to help all students to find their feet as competent and confident English speakers. With this in mind, I aim to introduce more and more students to the positive benefits of studying overseas. To make these goals a reality, I need to raise my working Japanese ability so that I can work closely with teachers, students and the "unsung heroes" at Okinawa Christian University; our wonderful, competent and ever patient administrative staff.

## 沖縄キリスト教学院大学名誉教授称号授与式

2013年6月3日、仲里朝章記念チャペルにて名誉教授称号授与式が行われ、本学院への多大な功績に対し、Randolph H. Thrasher 元人文学部英語コミュニケーション学科教授に、沖縄キリスト教学院大学名誉教授の称号が与えられました。

(左から)中原俊明学長、Randolph H. Thrasher名誉教授、神山繁實理事長▶



## 研究助成費獲得による 研究活動

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学では、外部資金による研究活動が行われています。2013年度の獲得結果は次のとおりです。

### 【科学研究費助成事業】

- 〔新規(研究成果公開促進費(学術図書))〕近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方(照屋 信治)
- 〔継続(研究分担者)〕交錯するまなざしー琉球・沖縄をめぐる欧米のトラベルライティングの総合的研究(浜川 仁)(研究代表者:名桜大学 山里 勝己)
- 〔継続(研究分担者)〕近代日本における教育情報回路と教育統制に関する総合的研究(照屋 信治)(研究代表者:岐阜女子大学 梶山 雅史)

### 【公益信託/宇流麻学術研究助成基金】

- 保育者養成におけるリアリスティックアプローチを用いたリフレクションについて(赤嶺 優子)
- 宮良長包の音楽教育活動に関する研究(大山 伸子)
- 希土類金属間化合物の強磁場および高圧力中での輸送特性の研究(内間 清晴)

### 【ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～】

- 医療・保健・福祉分野、教職を目指す人たちへ  
ー精神障害者・回復者理解と就労を学ぶー  
(近藤 功行)



## 同窓会・後援会

### 『ホームカミングデー』(2013.11.9 シャローム会館)

キリ学祭初日、同窓会は『ホームカミングデー』を開催しました。会の活動を周知させたい思いで、毎年恒例の行事として続けていこうと昨年からの継続の企画です。

今年度は、沖縄文化講演会(主催:沖縄地域留学生交流推進協議会=県内大学等の留学生に沖縄の文化を紹介)のイベントで『おきなわ人形劇・キジムナー』が同日、本学チャペルで開催されることと、講師が同窓会員の桑江純子先生(15期・保育科)であることから、同窓会も公演に賛同し協力するため、同窓会員へ公演鑑賞を呼びかけ、終了後は留学生の皆さんをゲストに、同窓会員のご家族の皆さんも交えて交流をもちました。

鶴淵さん(51期・保育科)のキーボード演奏をBGMに、軽食とコンタクのほか、卒業アルバムから編集した写真を、スライドショー「あの時、私は若かった」で懐かしいひと時を振り返りつつ、また、桑江先生が修業時代の苦労話や『人形劇団・かじまやあ』の今後の活動や夢などを沢山語って下さり、元気パワーを頂きました。今回の『ホームカミングデー』、少人数の参加者ながら、和やかで楽しい交流会でした。

さて、同窓会活動は会員相互の親睦を図ることが目的の一つではありますが、学院の維持発展のための支援や在学生の支援も同窓会の目的ですから、親睦交流は苦手という方も、母校への支援にはご協力頂けるのではないのでしょうか。若い会員の皆さん、積極的かつ継続的参加を期待しています。



### 同窓会からの お願い

同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。

① 住所 ② 氏名 ③ 電話番号 ④ 勤務先 の変更等をお知らせください。

【連絡先】同窓会事務局 電話/FAX:098-946-1280 E-mail:dousoukai@ocjc.ac.jp

◆教育管理職

【任期:2014年3月31日まで】

青野 和彦 宗教部長

【任期:2015年3月31日まで】(9月1日付け)

Daniel Broudy 異文化コミュニケーション学研究科長

村田 典枝 教学支援部長

上原 明子 学生支援部長(国際平和文化交流センター長兼務)

A.David Ulvog 英語コミュニケーション学科長

作田 真由子 英語科長

喜舎場 勤子 保育科長

張本 文昭 総合教育系主任

◆沖縄キリスト教学院大学

【昇任】(4月1日付け) 村田 典枝 教授(准教授)

【採用】(4月1日付け) Sinha Geoffrey Glyn 准教授

【退職】(3月31日付け) 村田 典枝 教授

◆沖縄キリスト教短期大学

【退職】(3月31日付け) 山城 真紀子 教授

◆学習支援センター

【任期:2015年3月31日まで】 武村 朝吉 センター長

◆事務職員

【採用】(4月1日付け)

山川 常次 総務課主任 (任期事務職員→専任採用)

松本 真美 宗教部書記 (任期事務職員→専任採用)

【異動】(4月1日付け)

平敷 直子 総務課書記 (企画推進課書記)

渡慶次 智子 教学支援部教務課長 (教学部教務課長)

原田 春美 教学支援部教務課書記(教学部教務課書記)

金城 太 教学支援部教務課書記(教学部教務課書記)

仲間 末美 教学支援部入試課長 (入試部入試課長)

上間 里子 教学支援部入試課書記(入試部入試課書記)

内間 貴士 教学支援部入試課書記(入試部入試課書記)

中田 竜次 学生支援部学生課長 (教学部学生課長)

新垣 桂子 学生支援部学生課主任(教学部学生課主任)

浜川 みゆき 学生支援部学生課書記(教学部学生課書記)

大城 芳野 学生支援部学生課書記(国際平和文化交流センター書記)

與那原 馨 学生支援部キャリア支援課長(キャリア開発部キャリア開発課長)

城間 勉 情報センター課主任 (企画推進課主任)

【異動】(9月1日付け)

米須 瑠美子 教務課書記 (企画推進課書記)

【退職】(3月31日付け)

大城 芳野 学生課書記

2012年度 決算報告

2012年4月1日から 2013年3月31日まで

資金収支計算書

(単位:円)

資金収入の部		資金支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生納付金収入	708,291,036	人件費支出	607,953,120
手数料収入	19,216,500	教育研究経費支出	196,460,545
寄付金収入	25,946,936	管理経費支出	47,761,883
補助金収入	165,987,731	借入金等利息支出	3,289,112
資産運用収入	11,894,760	借入金等返済支出	36,100,000
資産売却収入	2,426,523	施設関係支出	7,905,964
事業収入	4,808,143	設備関係支出	55,043,051
雑収入	14,953,915	資産運用支出	65,000,000
前受金収入	342,857,210	その他の支出	40,990,324
その他の収入	29,507,313	予備費	
資金収入調整勘定	△ 348,745,531	資金支出調整勘定	△ 32,582,289
前年度繰越支払資金	1,121,352,656	次年度繰越支払資金	1,070,575,482
収入の部合計	2,098,497,192	支出の部合計	2,098,497,192

消費収支計算書

(単位:円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生納付金	708,291,036	人件費	605,213,105
手数料	19,216,500	教育研究経費	300,113,343
寄付金	26,889,702	管理経費	56,847,140
補助金	165,987,731	借入金等利息	3,289,112
資産運用収入	11,894,760	資産処分差額	4,902,712
事業収入	4,808,143	徴収不能額	30,000
雑収入	14,963,915	予備費	
帰属収入の部合計	952,051,787	消費支出の部合計	970,395,412
基本金組入額	△ 88,904,626	当年度消費支出超過額	107,248,251
消費収入の部合計	863,147,161	前年度繰越消費支出超過額	378,895,573
		翌年度繰越消費支出超過額	486,143,824

貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	3,367,564,405	固定負債	419,864,571
有形固定資産	2,886,309,524	流動負債	408,036,675
土地	943,772,604	負債の部合計	827,901,246
建物	1,201,133,831	第1号 基本金	3,935,638,355
その他の有形固定資産	741,403,089	第2号 基本金	80,000,000
その他の固定資産	481,254,881	第3号 基本金	30,000,000
流動資産	1,086,831,372	第4号 基本金	67,000,000
現金預金	1,070,575,482	基本金の部合計	4,112,638,355
その他の流動資産	16,255,890	消費収支差額の部合計	△ 486,143,824
資産の部合計	4,454,395,777	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,454,395,777

2012年度決算について報告いたします。

計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。

# 寄付感謝報告

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。  
寄付指定(2013年1月1日～12月31日まで)

**個人(25件/¥7,109,095) 団体(29件/¥11,994,000) 合計(54件/¥19,103,095)**

施設設備資金		
同窓/在学生	4	415,150
一般	1	250,000
団体	4	236,000
宗教	1	3,000
宗教団体	6	293,000
学校関係者	2	940,000
教職員	3	1,220,800
同窓会	1	600,000
後援会	1	5,315,000
<b>合計</b>	<b>23</b>	<b>9,272,950</b>

奨学金		
一般	1	500,000
企業	9	830,000
団体	1	100,000
宗教団体	2	500,000
教職員	5	1,710,000
同窓会	1	600,000
後援会	1	3,010,000
<b>合計</b>	<b>20</b>	<b>7,250,000</b>

国際交流		
宗教団体	1	10,000
教職員	1	80,000
<b>合計</b>	<b>2</b>	<b>90,000</b>

キリスト教平和研究所		
宗教	1	50,000
教職員	1	1,110,000
<b>合計</b>	<b>2</b>	<b>1,160,000</b>

学生会活動援助費		
同窓会	1	300,000
後援会	1	200,000
<b>合計</b>	<b>2</b>	<b>500,000</b>

その他		
一般	1	500,000
学校関係者	2	130,000
教職員	2	200,145
<b>合計</b>	<b>5</b>	<b>830,145</b>

## Open Campus 2014

入試相談・体験授業・キャンパスツアーなど、キリ学・キリ短のキャンパスライフを体験!多くの方のご参加をお待ちしております。

高校1・2年生、保護者、一般の方、どなたでも自由に参加できます。

※詳細はwebでチェック!!

**第1回**  
**6/28(土)**  
13:00~16:00

**第2回**  
**7/26(土)**  
13:00~16:00



## Campus Visit Day 2014

入試相談会および授業見学

「Campus Visit Day」はキリ学・キリ短で展開される授業や入学前教育、さまざまな学びの行事を直接見学して頂ける、「小さなOpen Campus」です。本学スタッフによるキャンパスツアーや、入試相談会も同時に行います。

皆さまのふるってのご参加、心よりお待ちしております。

※詳細はwebでチェック!!

※第2回以降は決まり次第webに掲載します。

※2013年度開催実績: 11回

**第1回/6月**  
**6/2(月)** 16:00~18:00  
**6/6(金)** 16:00~18:00

**第2回/8月**  
**8/9(土)**  
13:00~15:00 (予定)

